

令和2年度 教育課程研究集会
小学校 算数

奈良県教育委員会事務局 学校教育課

指導主事 北村貴之

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 (令和2年3月)

→ 以下「参考資料」という。

第1編 総説

第2編 「内容のまとめりごとの評価規準」を作成
する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価
・指導事例の紹介

国立教育政策研究所のwebページから
ダウンロードすることもできます。



「知識・技能」の評価

- 個別の知識及び技能の習得状況について評価する。
- それらを既有的知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する。

※上記の考え方は、従前の評価の観点である

- ・ 「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）
- ・ 「技能」（各教科等において習得すべき技能を児童が身に付けているかを評価）
においても重視。

<評価の工夫（例）>

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- 実際に知識や技能を用いる場面を設ける。
 - ・ 児童に文章により説明をさせる。
 - ・ （各教科等の内容の特質に応じて、）観察・実験をさせたり、式やグラフで表現させたりする。

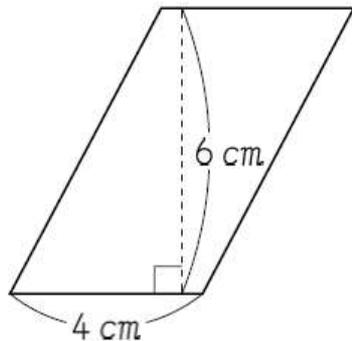
全国学力・学習状況調査【平成19年度A5(1)B5(3)】

次の図形の面積を求める式と答えを書きましょう。(3) ひろしさんの家の近くに東公園があります。

東公園の面積と中央公園の面積では、どちらのほうが広いですか。

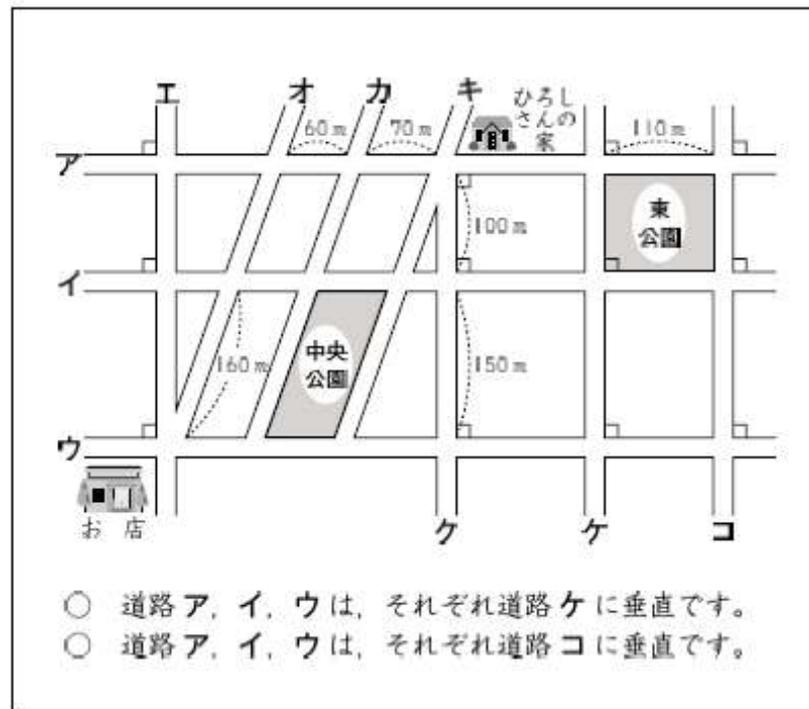
答えを書きましょう。また、そのわけを、言葉や式などを使って書きま
しょう。

(1) 平行四辺形



正答率 96.0%

知識・技能等を実
生活の様々な場面
に活用することは
簡単ではない。



正答率 18.2%

「思考・判断・表現」の評価

各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

<評価の工夫（例）>

- 論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れる。
- ポートフォリオを活用する。

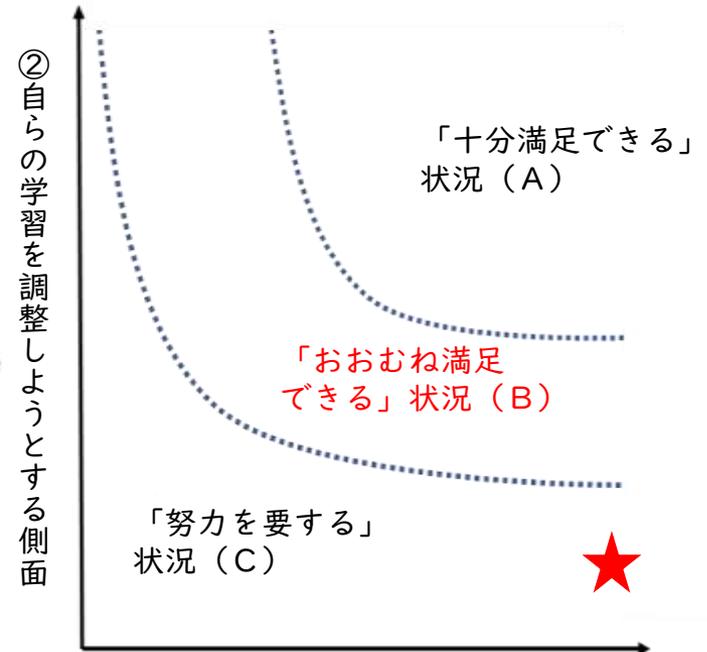
「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」については、知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○ 「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、
①知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面を評価することが求められる。

○ これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



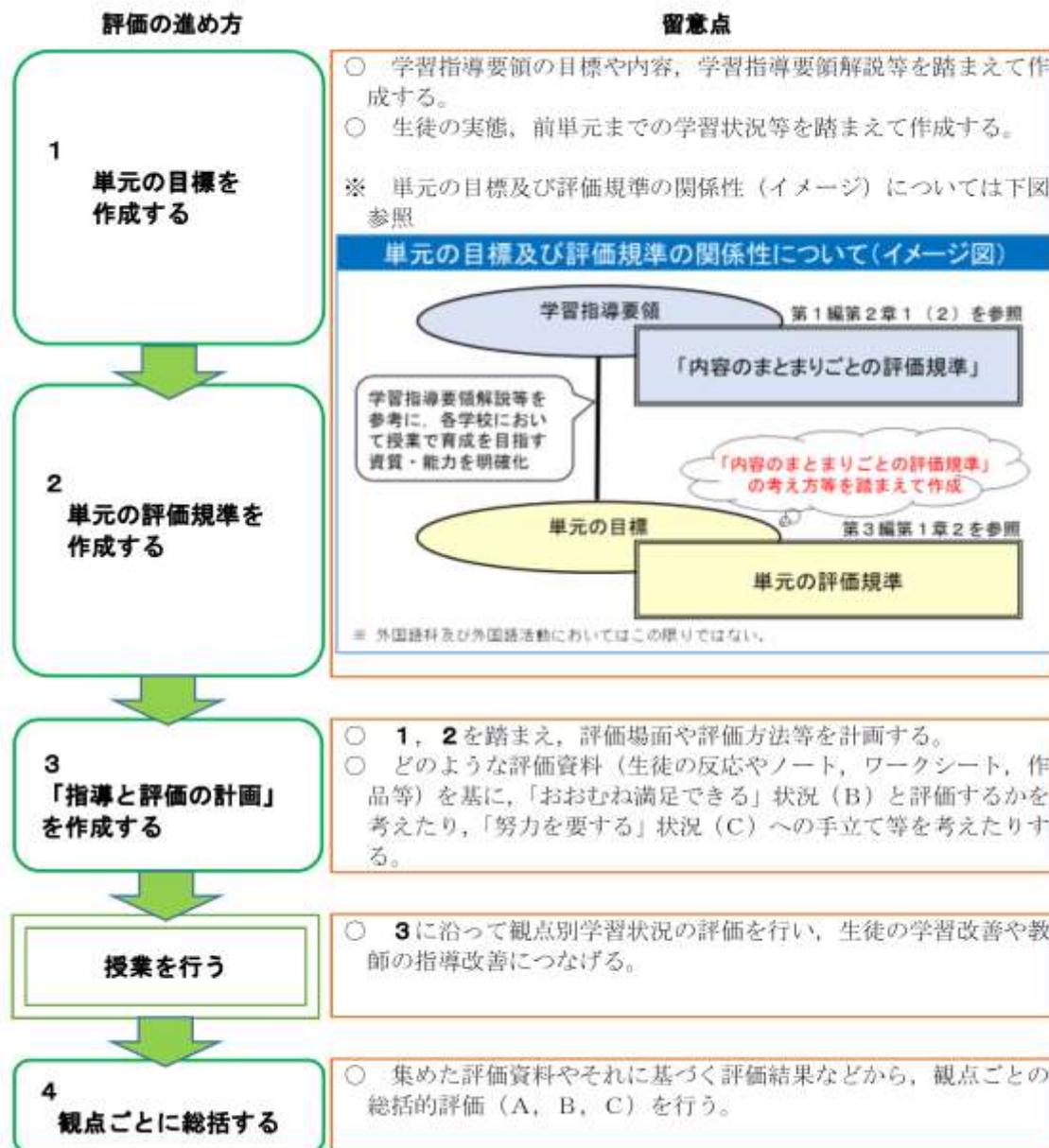
①粘り強い取組を行おうとする側面

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

<評価の工夫（例）>

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 児童による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※ 「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。
（例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。）



評価の進め方

留意点

1

単元の目標を
作成する

- 学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。
- 生徒の実態、前單元までの学習状況等を踏まえて作成する。

※ 単元の目標及び評価規準の関係性（イメージ）については下図

各学校において授業で育成を目指す
資質・能力を明確にする。

2

単元の評価規準を
作成する

学習指導要領解説等を
参考に、各学校において
授業で育成を目指す
資質・能力を明確化

学習指導要領

第1編第2章1(2)を参照

「内容のまとめりごとの評価規準」

「内容のまとめりごとの評価規準」
の考え方を踏まえて作成

「内容のまとめりごとの評価規準」
の考え方を踏まえて作成する。

3

「指導と評価の計画」
を作成する

- 1, 2を踏まえ、評価場面や評価方法等を計画する。
- どのような評価資料（生徒の反応やノート、ワークシート、作品等）を基に、「おおむね満足できる」状況（B）と評価するかを考えたり、「努力を要する」状況（C）への手立て等を考えたりする。

- ・平成23年「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 算数】では、「A数と計算」「B量と測定」「C図形」「D数量関係」というように、領域を内容のまとめりとしていた。
- ・平成29年改訂小学校学習指導要領では、各領域の(1)、(2)・・・ごとに「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」が記載されたことにより、参考資料は各領域の(1)、(2)・・・それぞれを、「内容のまとめり」と改めている。

<p>〔第1学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 数の構成と表し方</p> <p>「A数と計算」(2) 加法、減法</p> <p>「B図形」(1) 図形についての理解の基礎</p> <p>「C測定」(1) 量と測定についての理解の基礎</p> <p>「C測定」(2) 時刻の読み方</p> <p>「Dデータの活用」(1) 絵や図を用いた数量の表現</p>	<p>形</p> <p>「C測定」(1) 長さ、重さの単位と測定</p> <p>「C測定」(2) 時刻と時間</p> <p>「Dデータの活用」(1) 表と棒グラフ</p>	<p>「A数と計算」(4) 分数の意味と表し方</p> <p>「A数と計算」(5) 分数の加法、減法</p> <p>「A数と計算」(6) 数量の関係を表す式</p> <p>「B図形」(1) 平面図形の性質</p> <p>「B図形」(2) 立体図形の性質</p> <p>「B図形」(3) 平面図形の面積</p> <p>「B図形」(4) 立体図形の体積</p> <p>「C変化と関係」(1) 伴って変わる二つの数量の関係</p> <p>「C変化と関係」(2) 異種の二つの数量の割合</p> <p>「C変化と関係」(3) 割合</p> <p>「Dデータの活用」(1) 円グラフや帯グラフ</p> <p>「Dデータの活用」(2) 測定値の平均</p>
<p>〔第2学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 数の構成と表し方</p> <p>「A数と計算」(2) 加法、減法</p> <p>「A数と計算」(3) 乗法</p> <p>「B図形」(1) 三角形や四角形などの図形</p> <p>「C測定」(1) 長さやかさの単位と測定</p> <p>「C測定」(2) 時間の単位</p> <p>「Dデータの活用」(1) 簡単な表やグラフ</p>	<p>〔第4学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 整数の表し方</p> <p>「A数と計算」(2) 概数と四捨五入</p> <p>「A数と計算」(3) 整数の除法</p> <p>「A数と計算」(4) 小数の仕組みとその計算</p> <p>「A数と計算」(5) 同分母の分数の加法、減法</p> <p>「A数と計算」(6) 数量の関係を表す式</p> <p>「A数と計算」(7) 四則に関して成り立つ性質</p> <p>「A数と計算」(8) そろばん</p> <p>「B図形」(1) 平行四辺形、ひし形、台形などの平面図形</p> <p>「B図形」(2) 立方体、直方体などの立体図形</p> <p>「B図形」(3) ものの位置の表し方</p> <p>「B図形」(4) 平面図形の面積</p> <p>「B図形」(5) 角の大きさ</p> <p>「C変化と関係」(1) 伴って変わる二つの数量</p> <p>「C変化と関係」(2) 簡単な場合についての割合</p> <p>「Dデータの活用」(1) データの分類整理</p>	<p>〔第6学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 分数の乗法、除法</p> <p>「A数と計算」(2) 小数の乗法、除法</p> <p>「B図形」(1) 縮図や拡大図、対称な図形</p> <p>「B図形」(2) 扇形とおうぎ形の面積</p> <p>「B図形」(3) 円の面積</p> <p>「B図形」(4) 角柱及び円柱の体積</p> <p>「C変化と関係」(1) 比例</p> <p>「C変化と関係」(2) 比</p> <p>「Dデータの活用」(1) データの考察</p> <p>「Dデータの活用」(2) 起こり得る場合</p>
<p>〔第3学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 数の表し方</p> <p>「A数と計算」(2) 加法、減法</p> <p>「A数と計算」(3) 乗法</p> <p>「A数と計算」(4) 除法</p> <p>「A数と計算」(5) 小数の意味と表し方</p> <p>「A数と計算」(6) 分数の意味と表し方</p> <p>「A数と計算」(7) 数量の関係を表す式</p> <p>「A数と計算」(8) そろばん</p> <p>「B図形」(1) 二等辺三角形、正三角形などの図</p>	<p>〔第5学年〕</p> <p>「A数と計算」(1) 整数の性質</p> <p>「A数と計算」(2) 整数、小数の記数法</p> <p>「A数と計算」(3) 小数の乗法、除法</p>	

小学校算数科の「内容のまとめ」

B(1)縮図や拡大図、対称な図形

(1) 平面図形に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア)縮図や拡大図について理解すること。

(イ)対象な図形について理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア)図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常の生活に生かしたりすること。

「内容のまとめりごとの評価規準」を作成する

	知識及び技能 (ア) 縮図や拡大図について 理解すること 。 (イ) 対称な図形について 理解すること 。	思考力、判断力、表現力等 (ア) 図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に 生かしたりすること 。	学び向かう力、人間性等 ※内容には、学びに向かう力、人間性等について示されていないことから、該当学年目標(3)を参考にする。 第6学年の目標(3) 数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考える態度、数学のよさに気付き学習したことを生活や学習に活用しようとする 態度を養う 。
学習指導要領 2 内容			



内容のまとめりごとの評価規準例	知識・技能 ・縮図や拡大図について 理解している 。 ・対称な図形について 理解している 。	思考・判断・表現 ・図形を構成する要素及び図形間の関係に着目し、構成の仕方を考察したり図形の性質を見いだしたりするとともに、その性質を基に既習の図形を捉え直したり日常生活に 生かしたりしている 。	主体的に学習に取り組む態度 ・縮図や拡大図及び対称な図形について、数学的に表現・処理したことを振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気付き、学習したことを生活や学習に活用 しようとしていたりしている 。 ※必要に応じて学年別の観点の趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて作成する。
	文末を「 ～している 」「 ～できる 」として評価規準を作成する。	文末を「 ～している 」として評価規準を作成する。	文末を「 ～しようとしている 」として評価規準を作成する。

単元の評価規準のポイント

(1) 単元及び単元の目標を作成する手順

- ・算数科においては、「内容のまとめり」の数が、学年や領域ごとに違いがあることから、指導する際の授業時数も、「内容のまとめり」ごとに大きく異なる。
- ・例えば、20数時間かかる「内容のまとめり」もあれば、10数時間で終わるものもある。中には、1、2時間で終わる「内容のまとめり」もある。
- ・単元は、児童に指導する内容を適切にまとめて構成されるものであるが、各学校において単元を作成する際には、「内容のまとめり」をいくつか分割して単元とする場合やそのまま単元とする場合、いくつかの「内容のまとめり」を組み合わせて単元とする場合があるので、このことに留意が必要である。

評価の進め方

1
単元の目標を
作成する

単元の評価規準のポイント

算数科における「内容のまとめり」と単元の関係（例）

「内容のまとめり」	単元（例）
第2学年「C 測定」（1）「長さやかさの単位と測定」	単元「長さ」 単元「かさ」
第2学年「C 測定」（2）「時間の単位」	単元「時刻と時間」
第3学年「A 数と計算」（4）「除法」	単元「わり算」 単元「余りのあるわり算」 単元「大きな数のわり算」
第4学年「A 数と計算」（6）「数量の関係を表す式」 第4学年「A 数と計算」（7）「四則に関して成り立つ性質」	単元「式と計算」
第5学年「B 図形」（3）「平面図形の面積」	単元「平面図形の面積」
第6学年「B 図形」（1）「縮図や拡大図，対称な図形」	単元「縮図や拡大図」 単元「対称な図形」

「内容のまとめり」を
いくつか分割して
単元とする場合

単元の評価規準のポイント

算数科における「内容のまとめり」と単元の関係（例）

「内容のまとめり」	単元（例）
第2学年「C 測定」（1）「長さやかさの単位と測定」	単元「長さ」 単元「かさ」
第2学年「C 測定」（2）「時間の単位」	単元「時刻と時間」
第3学年「A 数と計算」（4）「除法」	単元「わり算」 単元「余りのあるわり算」 単元「大きな数のわり算」
第4学年「A 数と計算」（6）「数量の関係を表す式」 第4学年「A 数と計算」（7）「四則に関して成り立つ性質」	単元「式と計算」
第5学年「B 図形」（3）「平面図形の面積」	単元「平面図形の面積」
第6学年「B 図形」（1）「縮図や拡大図，対称な図形」	単元「縮図や拡大図」 単元「対称な図形」

「内容のまとめり」をそのまま単元とする場合

単元の評価規準のポイント

算数科における「内容のまとめり」と単元の関係（例）

「内容のまとめり」	単元（例）
第2学年「C 測定」（1）「長さやかさの単位と測定」	単元「長さ」 単元「かさ」
第2学年「C 測定」（2）「時間の単位」	単元「時刻と時間」
第3学年「A 数と計算」（4）「除法」	単元「わり算」 単元「余りのあるわり算」 単元「大きな数のわり算」
第4学年「A 数と計算」（6）「数量の関係を表す式」 第4学年「A 数と計算」（7）「四則に関して成り立つ性質」	単元「式と計算」
第5学年「B 図形」（3）「平面図形の面積」	単元「平面図形の面積」
第6学年「B 図形」（1）「縮図や拡大図，対称な図形」	単元「縮図や拡大図」 単元「対称な図形」

いくつかの「内容のまとめり」を組み合わせ
て単元とする場合

単元の評価規準のポイント

(2) 単元の評価規準の作成の手順

学習指導要領の内容の文言について

「内容のまとめりごとの評価規準」
の考え方を踏まえて作成する。

2
単元の評価規準を
作成する

①具体的に書かれている。

→「単元の評価規準」として、そのまま用いることができる。

例：第1学年「A数と計算」(1)「数の構成と表し方」

(ア) ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べること。

ものともものとを対応させることによって、ものの個数を比べることができる。

②抽象的に書かれている。

→「単元の評価規準」として、そのまま用いることができない。

例：第6学年「B図形」(1)「縮図や拡大図、対称な図形」

(ア) 縮図や拡大図について理解すること。

縮図や拡大図について理解している。⇒評価規準をより具体的に示す必要がある。

※巻末資料 (P89~P117)に「内容のまとめりごとの評価規準 (例)」、
(P118~P151)に「具体的な内容のまとめりごとの評価規準 (例)」が
掲載されています。ぜひ、参考にしてください。

「内容のまとめりごとの評価規準」参考資料 (P89~P117)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。また、余りについて知っている。 ・除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・除数と商が共に1位数である除法の計算が確実に行える。 ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、計算に関して成り立つ性質を見いだしたりしているとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりしている。 ・数量の関係に着目し、計算を日常生活に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除法に進んで関わり、数的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。



「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」参考資料 (P118~P151)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ・除法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。 ・除法と乗法や減法との関係について理解している。 ・除数と商が共に1位数である除法の計算が確実に行える。 ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ・除法は乗法の逆算と捉え、除法の計算の仕方を考えている。 ・余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 ・「日常生活の問題」(単なる文章題ではない。情報過多の問題、算数以外の教科の問題)を、除法を活用して解決している。 (いろいろな単元が終わった後に日常生活の中から、もしくは他教科等で、除法を適切に用いて問題解決している) ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ・除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など)
<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単な場合について、除数が1位数で商が2位数の除法の計算の仕方を知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が考えた除法の計算の仕方について、具体物や図と式とを関連付けて考えようとしている。



単元の評価規準の作成の手順

「内容のまとめりごとの評価規準」



「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」



「単元の評価規準」

第3学年「A 数と計算」
(4) 除法
単元「余りのあるわり算」

「単元の評価規準」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実に行える。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。「わり算探し」など)

算数科 事例Ⅰ

「指導と評価の計画から評価の総括まで」

単元名 余りのあるわり算

1 単元の目標

- (1) 割り切れない場合の除法の意味や余りについて理解し、それが用いられる場合について知り、その計算が確実にできる。
- (2) 割り切れない場合の除法の計算の意味や計算の仕方を考えたり、割り切れない場合の除法を日常生活に生かしたりすることができる。
- (3) 割り切れない場合の除法に進んで関わり、数学的に表現・処理したことを振り返り、数理的な処理のよさに気づき生活や学習に活用しようとしている。

2 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商が共に1位数である除法の計算が確実にできる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を考え、具体物や図などを用いて表現している。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量関係を考え、具体物や図などを用いて表現しようとしている。 ②除法が用いられる場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。（「わり算探し」）など

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		・思①（行動観察、ノート分析）	・態①（行動観察、ノート分析）
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		・思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	・知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

ねらいに応じた評価項目の精選と、記録に残す評価場面の精選

*評価の観点の略称は以下の通り。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		●思①（行動観察、ノート分析）	●態①（行動観察、ノート分析）
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 余りと除数の関係を調べる。	●知①（ノート分析） ●知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	●知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。		●思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
7	商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。			
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	●知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

ねらいに応じた評価項目の精選と、記録に残す評価場面の精選

単元目標を踏まえて、各時間について評価項目を精選する。

●：指導に生かす評価
○：総括の資料にするために記録に残す評価

*評価の観点の略称は以下の通り。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		●思①（行動観察、ノート分析）	●態①（行動観察、ノート分析）
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	●知①（ノート分析） ●知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	●知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		●思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	●知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

●:指導に生かす評価
○:総括の資料にするために記録に残す評価

算数科における知識は、単元を通して繰り返し使う中で、定着し理解が深まり、技能を繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていく。

*評価の観点の略称は以下の通り。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいことや、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。		●思①（行動観察、ノート分析）	●態①（行動観察、ノート分析）
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。		●思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	・知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

・授業中の発言や話し合いなどの活動の様子、
 ・個人解決時の問題解決の様子
 ・適用問題の解決の様子や学習感想の振り返り
 →ノート等の記述内容から評価の情報を収集することが望ましい。

●：指導に生かす評価
 ○：総括の資料にするために記録に残す評価

*評価の観点の略称は以下の通り。

時間	ねらい・学習活動	評価規準（評価方法）		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	余りがある場合でも除法を用いてよいこと		・思①（行動観察、ノート分析）	●態①（行動観察、ノート分析）
2	・や、答えの見つけ方を具体物や図などを用いて考える。			
3	余りがある場合の除法の式の表し方や、余りなど用語の意味を知る。 余りと除数の関係を理解する。 ・余りと除数の関係を調べる。	・知①（ノート分析） ・知③（ノート分析）		
4	等分除の場面についても余りがある場合の除法が適用できるかを考える。 ・等分除の場面で、答えの見つけ方を考える。		○思①（行動観察、ノート分析）	
5	余りがある場合の除法計算について、答えの確かめ方を知る。	・知②（ノート分析）		
6	日常生活の場面に当てはめたときに、商と		・思②（行動観察、ノート分析）	○態①（ノート分析）
7	余りをどのように解釈すればよいかを考える。 ・商に1を加える場合や加えない場合について、それぞれ考える。			
8	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。（章末問題）	・知①②③（ノート分析）		
9	学習内容の定着を確認する。（評価テスト）	○知①②③（ペーパーテスト）	○思②（ペーパーテスト）	
10	学習内容を適用して除法の問題を考えたり、解決し合ったりする。			○態②（ノート分析）

・既習事項を活用しようとしたり、話合いの中で友達の意見を参考にしたりする姿等に表れる。
・振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、日常生活の場面において活用したりする姿等に表れる。
→活動の様子やノート等の記述内容から評価の情報を収集することが望ましい。

●：指導に生かす評価
○：総括の資料にするために記録に残す評価

「思考・判断・表現」と「主体的に学習に取り組む態度」は、単元前半から後半にかけて高まることが考えられる。

*評価の観点の略称は以下の通り。

ペーパーテストにおける「知識・技能」と「思考・判断・表現」

問題Ⅰ

27mのなわとびを4mずつ切って、なわとびのなわをつくります。
何本とれて何mあまりますか。

(式)

(答え)

知識・技能①

包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知っている。

問題Ⅱ

子どもが30人います。4人乗りの車に分かれて乗ります。
みんなが乗るには、車が何台あればよいですか。

(式)

(答え)

(答えの理由)

余りの2人も車に乗るから、もう1台必要

思考・判断・表現②

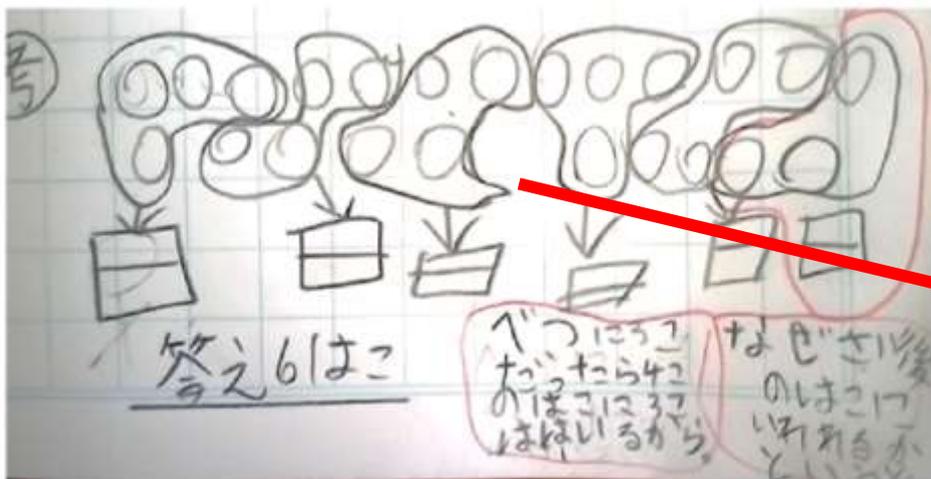
余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。

事例Ⅰ 指導と評価の計画から評価の総括まで

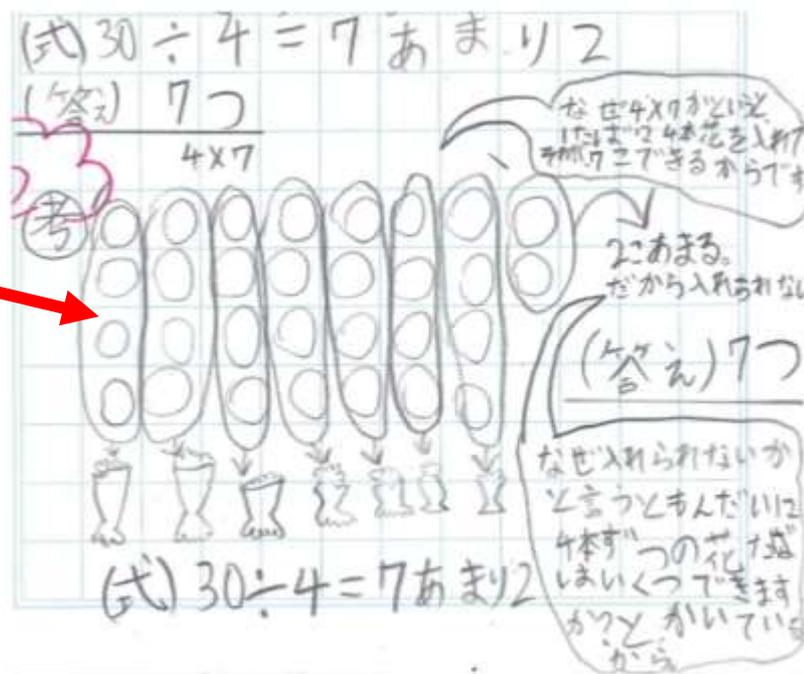
「主体的に学習に取り組む態度」の評価

第6時から第7時にかけて、
○図の表し方が乗法的なものへと洗練された
ノートの記述内容の例

第6時



第7時



主体的に学習に取り組む態度①

除法が用いられる場面の数量の関係を具体物や図などを用いて考えようとしている。

観点別学習状況の評価の総括

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	児童の様子に関する特記事項	単元の評価の総括
D 児	知									B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			※	C	→	B			B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時) ・だが、改善された。	B
	態						B				C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時) ・日常生活に結び付けることは難しい(第10時)	B
E 児	知									A		・余りのある除法の計算が確実にできている。(第9時)	A
	思				B			※		A		・余りの処理について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気付くことができた。(第7時)	A
	態							B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

観点別学習状況の評価の総括

		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	児童の様子に関する特記事項	単元の 評価の 総括
D 児	知					ペーパーテスト				B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			※	C	B				B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時) ・だが、改善された。	B
	態						B				C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時) ・日常生活に結び付けることは難しい(第10時)	B
E 児	知									A		・余りのある除法の計算が確実にできている。(第9時)	A
	思				B			※		A		・余りの処理について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気付くことができた。(第7時)	A
	態							B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

観点別学習状況の評価の総括

ペーパーテスト

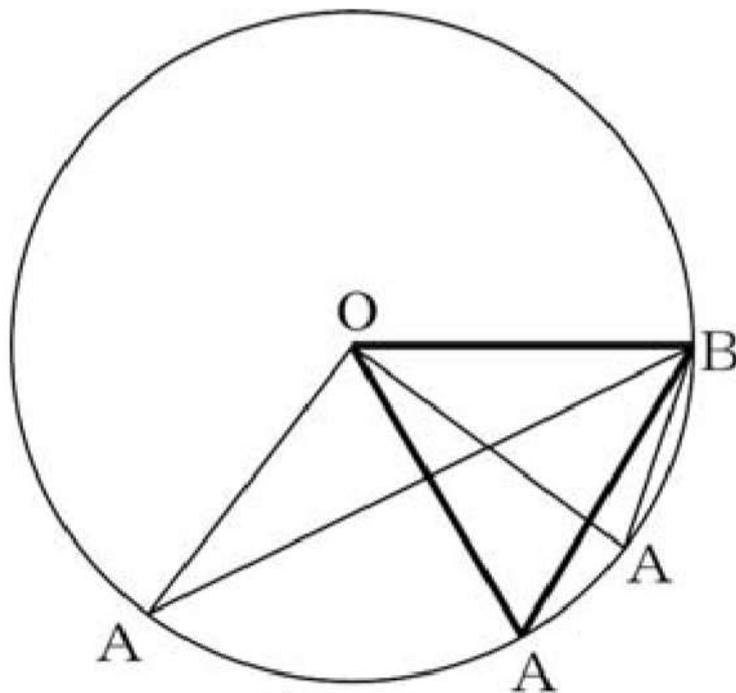
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	児童の様子に関する特記事項	単元の評価の総括
D児	知									B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			※	C	→	B			B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時) ・だが、改善された。(第6時)	B
	態						B				C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時) ・日常生活に結び付けることは難しい(第10時)	B
E児	知									A		・余りのある除法の計算が確実にできている。(第9時)	A
	思				B			※		A		・余りの処理について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気付くことができた。(第7時)	A
	態							B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

観点別学習状況の評価の総括

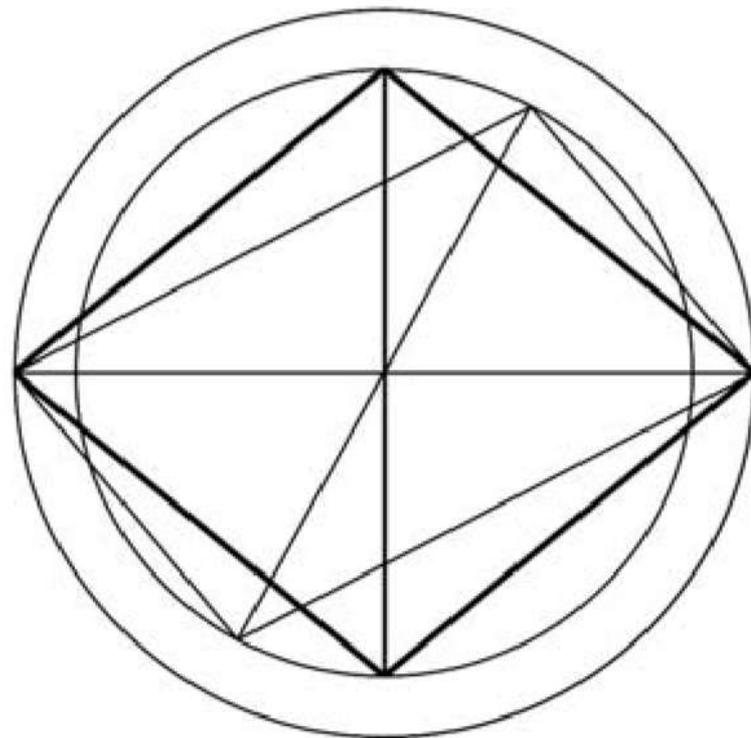
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	児童の様子に関する特記事項	単元の評価の総括
D児	知								B		・余りのある除法の計算が確実にできる。(第9時)	B
	思			※	C →	B			B		・図を使って説明する際に、等分除と包含除を混同しており、指導が必要だった。(第3・4時) ・だが、改善された。	B
	態						B			C	・ブロックや図を使って進んで考えようとしていた。(第1時) ・日常生活に結び付けることは難しい(第10時)	B
E児	知								A		・余りのある除法の計算が確実にできている。(第9時)	A
	思				B		※		A		・余りの処理について自力解決の段階では誤答だったものの、対話的な学びの中で気付くことができた。(第7時)	A
	態						B			A	・日常生活に結び付け、紹介することができた。(第10時)	B

小学校算数科におけるICTの活用例

図形を動的に変化させることで 図形についての感覚を豊かにする



二等辺三角形が連続的に変化することで
正三角形になることに気付く。



平行四辺形が連続的に変化することで
ひし形になることに気付く。

表やグラフが簡単にかける

- エクセル等を使うとすぐに表やグラフを作ることができる。
- 同じデータでも、違う見え方をするグラフに瞬時に変えることができる。
- △エクセル等を使えば表やグラフもかけるがそうでなければ書くのが難しい。ノートの紙の方がかきやすい。

